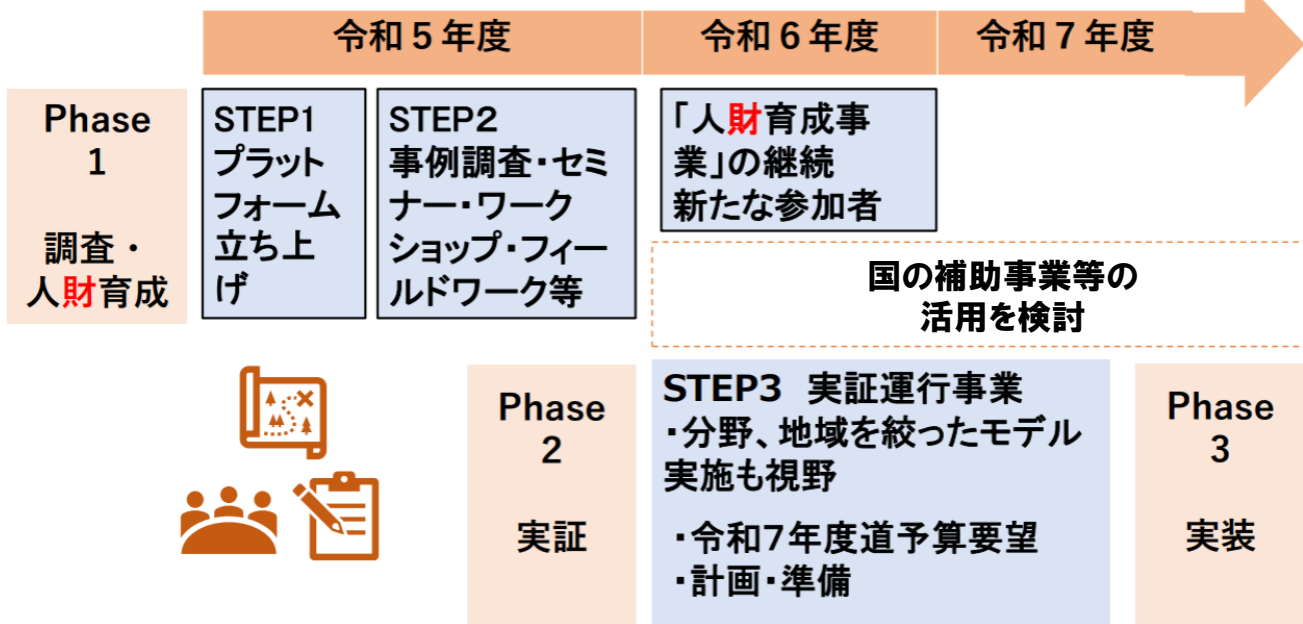


ゼロカーボン北海道に関連する取組・支援について

北海道運輸局
令和6年1月15日

- 令和5年12月から地元経済界や北海道観光振興機構が中心に、全道的な交通と観光の共創を目指した「北海道MaaS」の実現に向けた検討を開始。
- 北海道運輸局としても、広域的なMaaSの構築に向けて、『共創モデル実証プロジェクト（人材育成事業）』による支援に加え、セミナーでの講演やワークショップでの助言等を行っている。
 - ※ MaaS（Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者の移動ニーズに対応した複数の公共交通や移動サービス等を最適に組み合わせた検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

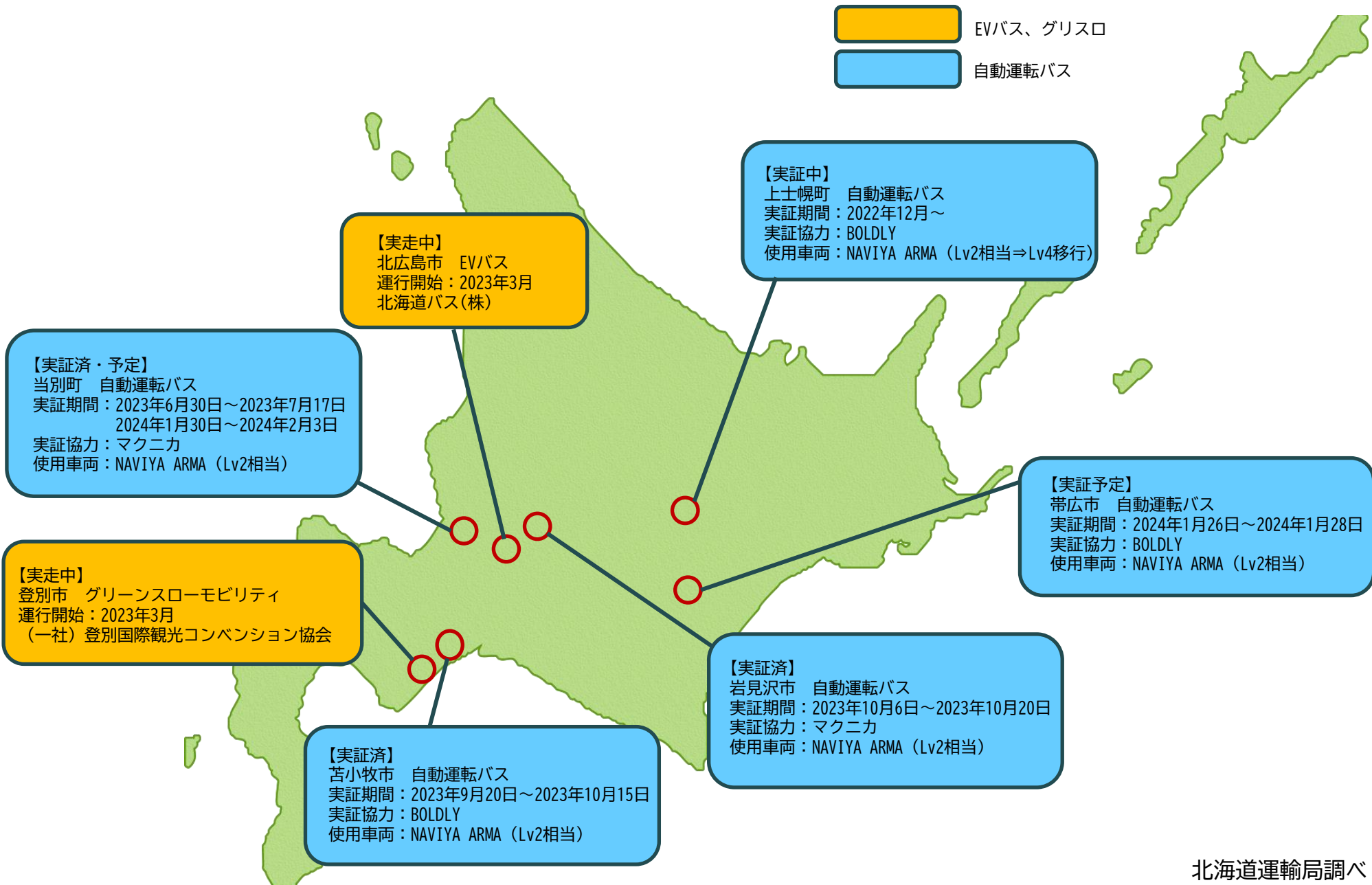
「北海道MaaS」のロードマップとゴール



R5.12.4 北海道 DO! MaaS キックオフセミナー

出典：「北海道 DO! MaaS 第1回ワークショップ資料」に基づき作成

EVバス、グリスロ
自動運転バス



1. 地域公共交通のリ・デザインの加速化

● 共創・MaaSプロジェクト

- ・AIオンデマンド・MaaS等「デジタル」や多様な関係者（医療・介護、教育・スポーツ、農業・商業、環境等）の「共創」による交通プロジェクトを各地の足の現状3類型（A・B・C）に応じて支援
- ・モビリティ「人材」（プロデューサー・コーディネーター、DX人材など）の育成支援

A 中小都市、交通空白地など

B 地方中心都市など

C 大都市など

● 自動運転実証調査事業

2027年度100か所以上の目標に向けて自動運転の社会実装に係る取組の支援



自動運転バスの運行

● ローカル鉄道の再構築支援

ローカル鉄道に係る公共交通再構築に向けた協議の場の設置、調査・実証事業を支援

4. 地域鉄道における安全性向上に資する設備整備支援

5. 訪日外国人旅行者受入環境の整備

公共交通機関におけるストレスフリーで快適に旅行できる環境を整備するため、多言語対応の強化、キャッシュレス決済の普及、バリアフリー化の推進等に関する個別の取組に対して支援

- ・車両等の大型化や観光車両等の購入・改良
- ・多言語対応のデジタルサイネージ、デジタルを活用した混雑状況の可視化 等



連節バス



ICカード



観光列車

2. バス・タクシー等公共交通事業者の人手不足対策

● 旅客運送事業者の人材確保

- ・2種免許取得、採用活動等、人材確保のために行う取組を支援
- ・女性・パートタイム運転者拡大のための勤務形態柔軟化・設備投資促進等「タクシー不足に対応する緊急措置」の推進

● 交通DX・GXによる省人化・経営改善支援

地域交通事業者によるDX・GX等による利便性向上や人材確保に資する取組に対して支援

- ・キャッシュレス・配車アプリ導入の推進
- ・運行管理システム導入の推進
- ・EVバス・タクシー導入 等



EVバス



クレカタッチ決済

3. 既存の地域交通支援に対する追加的な支援等

- ・利便性・持続可能性向上に取り組む地域の交通事業者への運行支援
- ・公共交通におけるバリアフリー整備
- ・車両の更新等地域鉄道における安全対策の推進 等

2021年 ATWS Hokkaido/Japan アジア初もコロナでバーチャル開催 2023年 北海道で再度実地開催

※ATWS：アドベンチャートラベルに関する世界最大の商談会



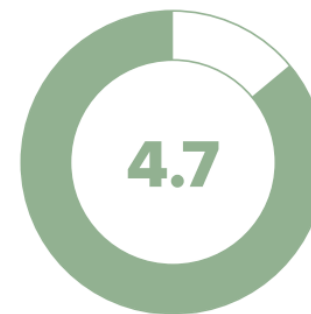
- ・会場：札幌コンベンションセンター
- ・期間：令和5年9月11日（月）～9月14日（木）
- ・参加者数：64の国と地域・約770人
- ・主催：Adventure Travel Trade Association (ATTA)
- ・テーマ：『調和 - Harmony』



<https://events.adventuretravel.biz/summit/hokkaido-2023>

ATWS2023の評価と今後の見込み

ATTAが参加者に実施したアンケートによれば、**AT目的地としての日本の評価**は5段階中**4.7**と高い。



Perception

Ranking out of 5 of Japan as an adventure travel destination

ATWS2023に参加し、アンケートに回答したバイヤーのうち**8割超**が、**新たに北海道の旅行商品を取り扱うことを検討している**。

出典：ATTA「ADVENTURE TRAVEL WORLD SUMMIT HOKKAIDO FINAL REPORT」



Day of Adventureの様子



会場内のネットワーキングの様子（Japan Lounge付近）



オープニングセレモニーでの斉藤大臣のビデオメッセージ放映



大倉山ジャンプ競技場でのウェルカムレセプション

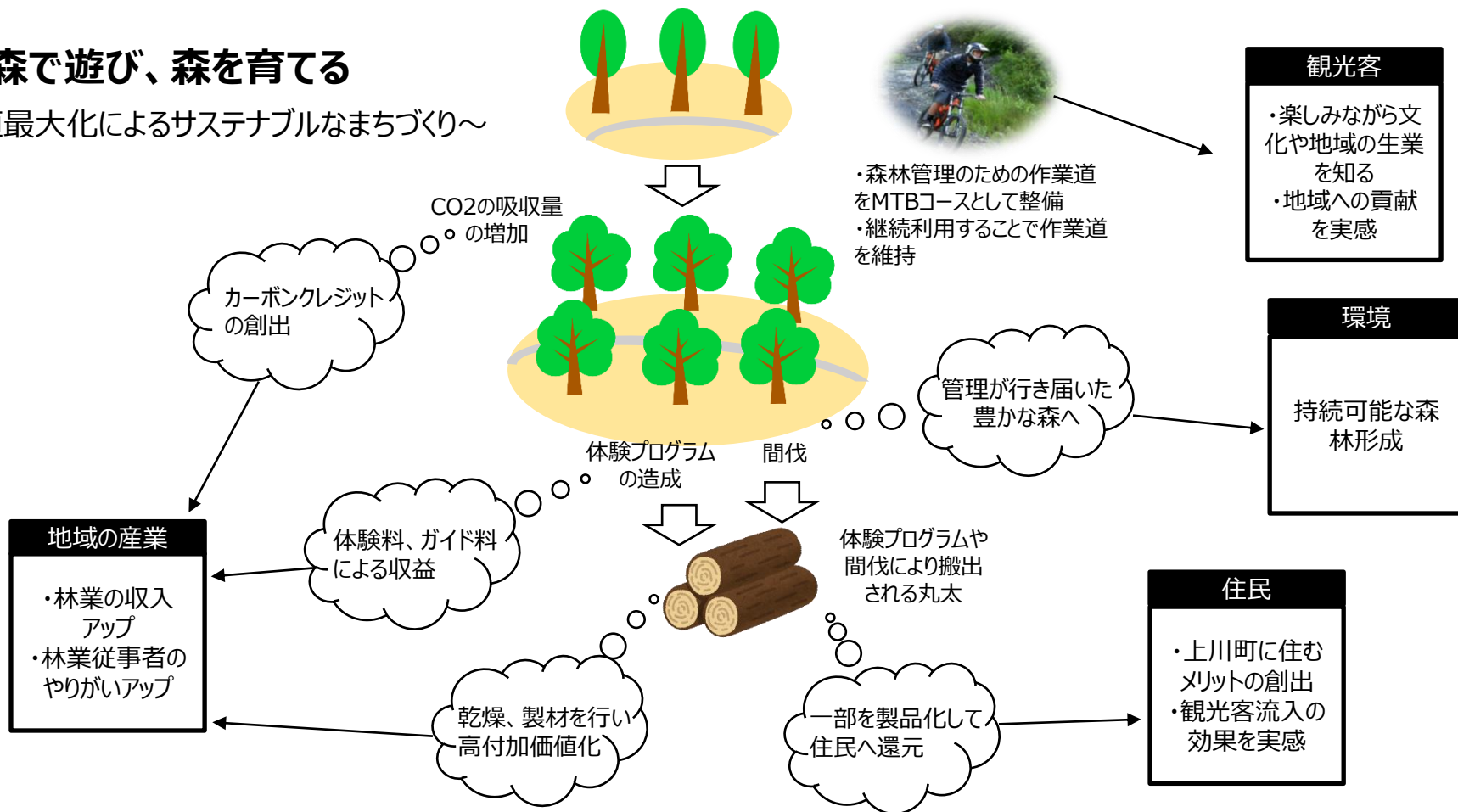
事業目的

○上川町の町有林をフィールドに、マウンテンバイク（以下MTB）のコースを造成、本格的な林業体験も実施。MTBコースを作業道として活用、間伐材の付加価値を上げて有効活用、そこから生み出される木工製品を町民に還元するなど林業とマウンテンバイク（以下MTB）を組み合わせた観光コンテンツを造成し、**地域の生業である「林業」を活性化させる。**

○観光客の流入によって森林資源が豊かになり、**地域の生業が活性化するという好循環を生み出し、持続可能な観光地経営を推進する。**

森で遊び、森を育てる

～森の価値最大化によるサステナブルなまちづくり～



宿泊施設サステナビリティ強化支援事業

事業目的・背景・課題

- 訪日外国人旅行者を中心にサステナブルな旅行や宿泊施設の選択意向が年々高まっており、世界の旅行者が我が国を旅行先として選択しなくなることを防ぐためにも、宿泊施設のサステナビリティ強化が必要。
- このため、訪日外国人旅行者の受け入れに向けて、旅館・ホテル等の宿泊施設が実施する、サステナビリティの向上に関する取組を支援する。

事業内容・事業イメージ

宿泊施設における省エネ型ボイラー、太陽光発電、省エネ型空調等の省エネ設備等の導入支援を行う。



省エネ型ボイラー



太陽光発電



省エネ型空調

事業スキーム

- ・事業形態：間接補助事業（補助上限1,000万円、補助率1/2）
- ・補助対象：国→民間事業者（事務局）→宿泊事業者

概要

○物流総合効率化法に基づきモーダルシフトの認定を受けた事業(※)について大型コンテナ等の導入経費を支援

(※)大型コンテナのラウンドユースやシャーシ・コンテナによる混載輸送、荷主・物流事業者連携による生産性向上に資する事業等先進的な取組を想定

補助内容・対象

【支援対象者】

○荷主・利用運送事業者・実運送事業者等から構成された協議会

【対象機器等】

○対象機器等

31ftコンテナ、大型コンテナ専用トラック、フォークリフト等の荷役機器、海運シャーシや40ftコンテナといった輸送機器やGPS機器、船内ドライバー用施設、冷蔵・冷凍コンテナ、冷蔵・冷凍トラック、低床貨車 等

○補助率： 1/2以内

○上限： 鉄道関係 3億円/1件、内航海運関係 1億円/1件

協議会イメージ

【荷主】

メーカー・卸売 等

【利用運送事業者】

地元の通運事業者 等

【実運送事業者】

JR貨物・内航海運事業者 等

【リース会社】



31ftコンテナとトップリフター



海運シャーシ

鉄道モーダルシフト促進セミナー in 札幌（仮称）

背景

- モーダルシフトは、物流における人手不足やカーボンニュートラルへの対応に有効な手段の一つ
- 「物流革新緊急パッケージ」においても、モーダルシフトの推進が掲げられたところ



- 北海道運輸局では、モーダルシフト促進を目的として、日本貨物鉄道株式会社北海道支社との共催により、「鉄道モーダルシフト促進セミナー」を開催予定

開催日時

令和6年3月6日(水)13時15分～16時30分

開催場所

- (1)札幌第二合同庁舎(9階講堂)
- (2)札幌貨物ターミナル駅

対象

荷主事業者・物流事業者（定員80名）

プログラム

(1)講義

- ① JR貨物の概要(仮)
- ② 通運業者の取組事例(仮)
- ③ 荷主企業の取組事例(仮)

(2)見学

- ① 札幌貨物ターミナル駅
- ② DPL札幌レールゲート